

メルマガ 「いいテク・ニュース」 季語に遊ぶ 2025年3月25日 (Vol.188)

誰かに話したくなる地球の大自然、絶景と俳句 第2回

誰かに話したくなる地球の大自然、絶景と俳句 第2回



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Toscana_-_Val_d%27Orcia_-_dalla_Via_della_Foce_-_Flickr_-_Oishi_Kuranosuke.jpg

オルチア溪谷の田園風景

前回から、驚きの自然現象、神秘的な風景、雄大な海や山、色鮮やかな大地など毎回3テーマずつ感動を与えてくれる世界の風景とそれに合った俳句をお届けしています。

第2回の今回は、

1. 中国・雲南省南部の
「紅河ハニ棚田ー世界一大きな天空の棚田ー」
2. アフリカ、グレート・リフト・ヴァレーにある
「ー数百万羽のフラミンゴが生息し、湖をピンク色に染めるーボゴリア湖」
3. ーイタリア北部、トスカーナの心なごむ牧歌的な田園風景ー「オルチア溪谷」をご紹介します。

関連季語とともに楽しみください。

1. 紅河ハニ棚田 —世界一大きな天空の棚田—



https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Terrace_field_yunnan_china.jpg

紅河ハニ棚田

中国・雲南省南部の山奥に、紅河ハニ棚田と呼ばれる棚田群があります。

少数民族のハニ族が 1200 年かけてつくった世界最大の棚田で、総面積は 54000 ヘクタール、東京ドームの約 10000 倍にもなるそうです。

最大勾配は 75 度とかなり急で、棚田の上から下までの標高差は 500 メートルもあり、段数でいうと 3000 段にもなります。

130 階建てのビルと同じ高さですから驚きです。

この見事な棚田をハニ族の人々はどのようにつくったのでしょうか。

かつてチベットで暮らしていたハニ族は、他の民族に追われこの地に逃げてきました。そこで、彼らは気の遠くなるような努力で山肌を耕し、稲作を開始。作る農作物の主な品種は赤米です。

雲南省は亜熱帯気候で、雨がたくさん降り、降り注いだ雨水は山地にしみ込み、清水となって流れ出します。

この棚田では、山の森から湧き出した水は棚田を一年中満たし、稲刈りも水を張ったまま行ないます。

日本の田んぼだと稲刈りの前に水を抜きますが、ハニ棚田ではその時期も水を張ったままです。

砂の成分が多い土壌なので、乾きやすく、水を抜いてしまうと、棚田自体が崩れてくるということで、田んぼを維持するために水を張り続けるそうです。

その水の枯れない田んぼを利用して、鯉が養殖されています。鯉は食用でもありますが、稲の害虫を鯉が食べてくれて一石二鳥なのです。

ハニ棚田には野生のアヒルもいて害虫を食べてくれるので、鯉とアヒルのおかげで農薬の使用を抑える農業を確立しています。

刈った稲は田んぼでそのまま脱穀し、米が入った 40 キロの米袋を背負って村まで運びます。1 番下の田んぼから村までは 1 時間近くかかるそうで、かなりの重労働です。

厳しい生活環境ですが、創意工夫にあふれた棚田では、田植えの時期は茶色、稲の成長時期は緑色、稲刈りの時期は黄金色と、季節により、また、季節の変わり目により、色とりどりの光景が展開します。

ここでは「棚田」＋春夏秋冬の季語で詠まれた句を選びました。

雪解水（ゆきげみず）棚田つらぬき瀬をなせり

松村蒼石

季語「雪解水」で初春

水入れし棚田の家や牡丹咲く

森 澄雄

季語「牡丹」で初夏

渡り鳥棚田一枚ずつ暮れる

角川春樹

季語「渡り鳥」で三秋

狩りの犬棚田飛び降り吠え登る

福田蓼汀

季語「狩り」で三冬

2. ボゴリア湖 —数百万羽のフラミンゴが生息し、湖をピンク色に染める—



<https://commons.wikimedia.org/wiki/File:LakeBogoria.jpg>

ボゴリア湖のフラミンゴ

ボゴリア湖はアフリカ大陸を縦断する「グレート・リフト・ヴァレー」という幅約 60 km、全長は 7,000 kmにも及ぶ巨大な渓谷の一部にあります。

「グレート・リフト・ヴァレー」は 2000 年以上も前から形成がはじまり、その巨大地溝は独自の気候に恵まれており、豊かな自然を求めてたくさんの動物が集まってきます。

この「グレート・リフト・ヴァレー」今でも年に数ミリずつ動いていて、数百万年後にはアフリカ大陸を分断してしまうと考えられているのだそうです。
自然の圧倒的な力を感じずにはられません。

世界遺産である「グレート・リフト・ヴァレーの湖畔」に見られるフラミンゴの数は、世界に生息するフラミンゴの約 75 %を占めると言われていて、その湖畔群のなかにボゴリア湖はあり、水深は約 10 mと浅く、長さ 34 km、幅は 3-5 kmの湖です。

この湖は強アルカリ性の塩湖で、湖底から熱湯が湧き出しています。
そのような環境のため、魚は生息することができません。

その代わりに数百万羽ものフラミンゴが生息しており、湖をピンク色に彩っています。
広涼な大地に出現した色鮮やかな絶景です。

ボゴリア湖には、高温と強アルカリ性の環境を好むスピルリナという藻類が生息していて、乾季になって塩分の濃度が高まると大繁殖します。

元来、フラミンゴはピンク色の鳥ではなく、生まれたばかりの頃は真っ白です。
それが、赤い色素を持つスピルリナを餌にすることで、体色がピンク色に変化していきます。
つまり、ボゴリア湖の絶景の生みの親は、スピルリナともいえます。

ここでは、「フラミンゴ」+春夏秋冬の季語を詠んだ句を選びました。

フラミンゴ片足立ちに春惜しむ

紫野はづき

季語「春惜しむ」で晩春

緑陰が吐き出すものにフラミンゴ

山田耕司

季語「緑陰」で三夏

フラミンゴ色なき風に華やげり

大串 章

季語「色なき風」で三秋

風花や首を揃えてフラミンゴ

富本茂子

季語「風花」で晩冬

3. オルチア溪谷 —心なごむイタリア トスカーナの牧歌的な田園 風景—



[https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Toscana - Val d%27Orcia - dalla Via della Foce - Flickr - Oishi Kuranosuke.jpg](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Toscana_-_Val_d%27Orcia_-_dalla_Via_della_Foce_-_Flickr_-_Oishi_Kuranosuke.jpg)

オルチア溪谷の田園風景

イタリア北部に位置するトスカーナ地方に位置するオルチア溪谷は 2004 年にユネスコの世界遺産に登録されました。

そのなだらかな丘陵地にはぶどう畑、麦畑、オリーブ畑、果物、野菜などの小規模な混合農園があり、干し草や家畜の放牧も行われる牧草地が点在します。

ここには、いくつかの魅力的な小さな街があります。

特に有名なのは、ルネッサンス期の都市計画が反映されたピエンツァと最高級ワイン「ブルネッロ・ディ・モンタルチャーノ」の産地であるモンタルチャーノです。
これらの街では、美しい景色とともに地元のワインやチーズを楽しむことができます。

また、オルチア溪谷は多くの芸術家にインスピレーションを与え、ルネサンス絵画の背景としても描かれています。
例えば、レオナルド・ダ・ヴィンチの『モナ・リザ』や『受胎告知』の背景には、この地域の風景が描かれています。

オルチア溪谷の風景は季節によって大きく変化し、それぞれの季節ごとに異なる魅力を持っています。

春には緑豊かな畑が広がり、色とりどりの花々が咲き誇ります。

夏には黄金色に輝く麦畑が広がり、秋には収穫を迎えたぶどう畑が紅葉に染まります。

冬には霧が立ち込める幻想的な風景が見られます。

それはまるで風景画の世界に入り込んだような美しさです。

もともとオルチア溪谷の土壌は粘土質で、農作物の栽培には向いていませんでした。
しかし、14 世紀にシエナという都市国家が発展したことで、人口が増え食料を賄うため、農業の振興が必要となりました。

100 年単位で土壌改良をおこない、牧草地や畑として開発され、ぶどうや麦などが収穫できる現在の
ような田園風景が誕生しました。

ここではオルチア溪谷の風景から、春に咲く草花を詠んだ句を選びました。

蒲公英（たんぽぽ） 三春

蒲公英は道端や野原など日本国内はもとより、世界各地で400種もあり、どこでも見かける春の野を代表する花です。

江戸時代までは花の形が伝統楽器の鼓に似ていることから「鼓草（つづみぐさ）」とよばれていて、鼓を打つと「たん、ぽん、ぽん」の音がすることが元となり、たんぽぽという名がついたとされています。

地面に力強くへばりついたギザギザの葉の緑色と鮮やかな黄色い太陽のような花のコントラストが美しく、春の到来を告げてくれます。

英語名の「Dandelion（ダンディライオン）」は「ライオンの歯」という意味で、たんぽぽのギザギザの葉の形がライオンの歯を、また、鮮やかな黄色い花の色もライオンのたてがみを連想させることに由来します。

たんぽぽのサラダの話野の話

高野素十

紫雲英（げんげ） 仲春

日本には江戸時代に渡来した中国原産のマメ科の二年草。

3-4月に薄紅色の小花を咲かせ、「蓮華草（れんげそう）」とも呼ばれます。

この名の方が馴染み深いですが、俳句では「紫雲英（げんげ）」「げんげん」と詠まれることが多いです。

水田の緑肥にするために、稲の収穫後の田んぼにれんげの種子を蒔き、翌春すき込みます。

すき込む前の田は一面にれんげが咲き乱れ、まるで紫雲が低くたなびいているように見えることが紫雲英の名の由来です。

また、れんげの花は蜂蜜の源となる蜜源植物で、蜜の色や味も良く量的にもたくさん取れます。

ヨーロッパでは照明用のローソクの原料である蜜蝋をとるために、キリスト教修道院などで養蜂がさかんに行われました。

花はミツバチが止まると自然に花びらが開いて、花蜜を吸いやすいようにできています。

ミツバチが花粉を運んでくれ、めしべにつくことをわかっているのです。

げんげ摘む夢追ふ人のやうに摘む

黒崎千代子

パンジー 晩春

花の色が紫、黄、白の三色で彩られていることから「三色堇（さんしょくすみれ）」とも呼ばれます。公園の花壇や花時計、一般家庭の庭を彩る春の代表的な草花の一つです。

もともとはヨーロッパの山に自生するもので、花の直径は2センチほどのものでしたが、100年ほどの間に改良が重ねられ、現代のような直径が数センチにも及ぶような花卉になりました。

柔らかなピロードのような大きな艶のある花卉は蝶の舞う姿に似ているところから、遊蝶花、胡蝶花の別名もあります。

人を呼ぶように風に揺れ、目鼻の模様にも見える花です。

また、シェークスピアの喜劇「夏の夜の夢」ではパンジーの花の汁が媚薬として登場します。

パンジーの畑蝶を呼び人を呼び

松本たかし

スイートピー 晩春

マメ科の園芸植物で、シチリア島原産です。

ヨーロッパ各国で品種改良が盛んに行われ、日本には幕末に渡来しました。

「スイートピー」は英名で「Sweet pea」、「香りの良い豆」という意味があります。

葉や花はエンドウに似て、蔓を伸ばし支柱などに絡みつき、蝶の羽のような花卉が開くと芳香が漂います。

もとの花色は薄紫色でしたが、改良されて白、ピンク、黄色なども作られました。

松田聖子さんのヒット曲『赤いスイートピー』は、曲が出た当初にはなかった花色です。

その後、品種改良が進み、赤色も誕生しました。

柔らかで優しい雰囲気好まれ、よく切り花として愛でられます。

落下傘いまし着陸スイートピー

堀之内長一

チューリップ 晩春

16 世紀後半、「チューリップ」の原種が中央アジアからヨーロッパに渡り、オランダを中心に品種改良されました。

花色は赤、ピンク、黄、白、紫など。

花卉も尖ったり、丸かったり、フリルがあったり、咲き方も上向きの六弁花や反り返って開花するものもあったりと、多種多様なところも魅力です。

今ではどこでも、公園や庭で気軽に花をたのしめるチューリップ。

そんなチューリップに関する一番大きな出来事は 17 世紀のオランダで発生した「チューリップバブル」です。

「チューリップバブル」とは、チューリップの球根の価格が一般的な市民の年収の 10 倍もの価格で取引され、その後急落し、世界最古の金融バブルとして知られています。

チューリップは当時のヨーロッパではまだまだ珍しい希少な植物で、貴族や資産家にとって一つのステータスでした。

花壇にチューリップが咲き誇るさまは富の象徴だったのです。

当時からチューリップの栽培にはオランダの気候と土壌が適しており、オランダで生産された球根がヨーロッパ全土に広がり栽培されていました。

ほどなくチューリップの収集家や愛好家が現れ、品種改良が進みます。

その結果、様々な品種が産み出され、気軽に買える品種も現れる一方、球根一つで土地付きの家が買えるほどの価格がつくこともありました。

それはチューリップには他の花には見られない独特な特徴があるからです。

何の変哲もない普通のチューリップが翌年、何の前触れもなく珍しい模様の花を咲かせることがあるのです。

今ではその原因は、アブラムシが運ぶウィルスにあることがわかっていますが、当時はそれを「ブレイク」と呼びその球根が高値で取引されました。

ごく普通の一般市民も気軽に変える球根が、ある日突然、高値をつける球根に化けるかも…。

そのような射倖心から一般市民もチューリップの売買ができる市場が形成され、多くの市民が球根を買い求めていきました。

しかし、チューリップの球根はそう簡単には増やせません。

栽培農家から供給される球根はたちまち売り切れ、そこで「来春出荷する分の契約ならしてもいいよ」と、今で言う先物取引の契約が交わされるようになりました。

さらには、球根をを入手するあてもないのに、先物の契約をしてしまう仲買人まで現れる始末です。

ついには、土地や家を担保にチューリップ市場へ資金を投じる一般市民もどんどん増えて、ある球根は、アムステルダムの運河沿いで、最も高い家より高値で取引されたそうです。

しかし、バブルはいずれはじける宿命です。

ある日、何の前触れもなく大暴落。

土地や家屋を担保にして、市場参入した人たちの手には、価値をなくした球根が残るだけとなりました。

オランダをはじめヨーロッパの経済が大混乱におちいり、翌年、オランダ政府が「合意価格の 3.5 % 支払いで債務を破棄できる」と宣言し、ようやく一定の収束をみました。

このことからしばらくは、オランダではチューリップが忌み嫌われました。

しかし、チューリップの育種技術、生産技術が優れていることから、現在オランダはチューリップの生産、供給ともにダントツの世界一となっています。

赤黄白まつすぐだからチューリップ

川崎展宏

チューリップ明るいバカがなぜ悪い

ねじめ正一

わたしも詠んでみました。

のんちゃんと雲に乗る夢チューリップ

白井芳雄

主な参考文献、出典：著者 詩歩

『死ぬまでに行きたい！世界の絶景』（三オブックス）（2013年）
ISBN978-4-86199-611-5

執筆 山本厚子

『地球一周 365日 世界遺産絶景の旅』（いろは出版）（2021年）
ISBN978-4-86607-184-8

著者 円城寺守

『365日 世界の大自然』（三オブックス）（2022年）
ISBN978-4-86673-319-7

飯田龍太・稲畑汀子・金子兜太・沢木欣一監修

『カラー版 新日本大歳時記 愛蔵版』（講談社）（2008年）
ISBN978-4-06-128972-7

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川權・堀切実編集委員

『新版 角川俳句大歳時記 春』（KADOKAWA）（2022年）
ISBN978-4-04-400504-7 C0392

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川權・堀切実編集委員

『新版 角川俳句大歳時記 夏』（KADOKAWA）（2022年）
ISBN978-4-04-400499-6 C0392

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川權・堀切実編集委員

『新版 角川俳句大歳時記 秋』（KADOKAWA）（2022年）
ISBN978-4-04-400500-9 C0392

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川權・堀切実編集委員

『新版 角川俳句大歳時記 冬』（KADOKAWA）（2022年）
ISBN978-4-04-400502-3 C0392

参考サイト：フリー百科事典ウィキペディア (Wikipedia)

最後までお読みいただきありがとうございました。

(株)技術情報センター メルマガ担当 白井芳雄

本メールマガジンのご感想や本メールマガジンへのご意見・ご要望等 melmaga@tic-co.com まで、
どしどしお寄せ下さい。

株式会社 技術情報センター 〒530-0038 大阪市北区紅梅町 2-18 南森町共同ビル 3F

TEL : 06-6358-0141 FAX : 06-6358-0134 E-mail : info@tic-co.com